



[海の状況 (6/16~7/15)]

- ・小川地先の表面水温… 6月中旬は神子平年並み(平年差±0.5℃)で推移したが、6/22以降は神子平年よりはなはだ高め(平年差1.5℃~)で推移した。(図1)  
※神子平年は、1988年~2017年の神子地先の平均値
- ・米ノ地先の表面水温… 6月はやや低め(平年差-1.0℃~-0.5℃)からはなはだ高め(平年差1.5℃~)で推移したが、7月以降は概ねはなはだ高め(平年差~1.5℃)で推移した。(図2)

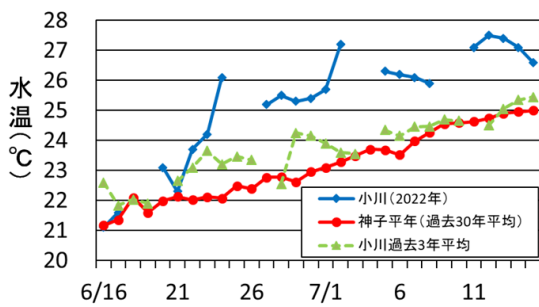


図1 若狭町小川地先における表面水温の推移

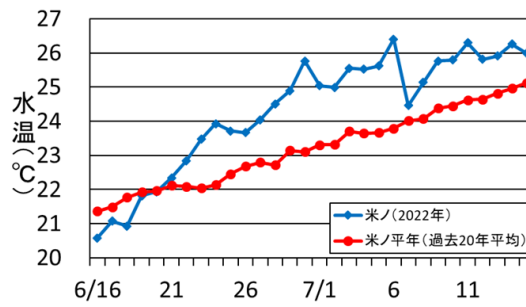


図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

※小川過去3年平均は2019年~2021年の小川地先の平均値であり、2年以上の水温データが揃った日のみ取り扱っている。

[若狭湾および周辺海域の海況：6月]

6月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、昨年同時期に比べ、表層(水深0m)では、20℃~22℃の範囲が大きくなっていた。水深50mでは、若狭湾沿岸で18℃~20℃の範囲が小さくなっていた。水深100mでは、若狭湾沿岸で16℃~18℃の範囲が小さくなっていた。水深200mでは、若狭湾沖で4℃以下の範囲が小さくなっていた。(図3)

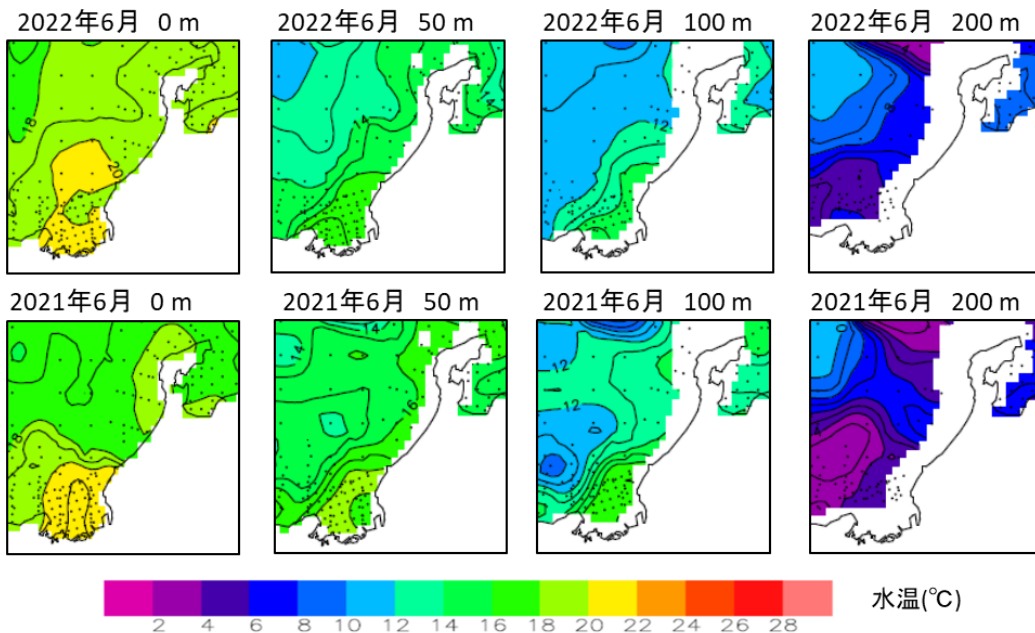


図3 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図(日本海区水産研究所の日本海漁場海況速報より抜粋)

(漁場環境グループ 岩崎 俊祐)

## 大型クラゲ情報

7月12日に長崎県対馬の定置網で今年初の確認があり、7月20日までに合計約80個体の入網が確認されています。尚、長崎県対馬の定置網で昨年同時期までの合計入網数は約6,060個体です。

福井県での確認情報は今のところはありませんが、引き続き大型クラゲの動向に注視していきます。

(漁場環境グループ 岩崎 俊祐)

### 〔県内の漁模様：6月〕

2022年6月の県内の総漁獲量は1,163 tで、前年同月を146 t下回った。

#### 〔定置網〕

漁獲量は897 tで、前年同月並みであった。ブリ銘柄計は大きく上回り、トビウオも上回ったが、サワラ、シイラ、ケンサキイカは大きく下回った。

#### 〔底びき網〕

漁獲量は36 tで、前年同月を4 t下回った。アカエビが下回った。

#### 〔釣り・その他〕

漁獲量は229 tで、前年同月を143 t下回った。スルメイカ、タコ類が下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(6月)

定置網 (kg)						底びき網 (kg)					
魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差	魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差
イワシ類	7,058	12,512	9,749	-5,454	-2,691	アカエビ	33,040	36,197	38,132	-3,156	-5,092
(カタクチイワシ)	6,933	3,299	7,830	3,634	-897	その他エビ	3,041	3,241	3,056	-200	-15
アジ類	112,895	170,223	145,355	-57,328	-32,460	その他	295	714	12,411	-419	-12,116
サバ類	262,344	241,382	59,341	20,962	203,003	合計	36,376	40,151	53,598	-3,775	-17,222
ブリ 銘柄計	272,580	80,866	286,984	191,715	-14,404	釣り、延縄、さし網、その他の漁法 (kg)					
(ブリ)	121,457	29,154	103,258	92,303	18,199	魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差
(ワラサ)	89,074	4,063	18,008	85,010	71,066	タイ類	10,395	9,626	8,871	769	1,524
(ハマチ)	31,371	5,569	28,810	25,802	2,560	(キダイ)	9,558	7,579	6,616	1,979	2,943
(ツバス)	30,606	41,775	136,790	-11,169	-106,184	アマダイ	2,497	4,111	3,636	-1,615	-1,139
(アオコ)	73	304	118	-232	-46	スズキ	754	2,206	3,209	-1,451	-2,455
ヒラマサ	1,411	824	6,220	587	-4,809	メバル類	2,403	1,820	3,346	583	-943
シイラ	2,293	32,209	6,729	-29,916	-4,437	スルメイカ	159,443	282,260	135,983	-122,817	23,461
サワラ	79,349	177,601	167,314	-98,252	-87,965	タコ類	20,762	34,954	34,835	-14,192	-14,072
トビウオ	108,248	78,270	151,033	29,979	-42,785	サザエ	10,248	8,992	19,397	1,256	-9,149
タイ類	9,103	5,880	9,672	3,222	-569	アワビ	2,677	2,583	2,718	94	-41
スズキ	3,660	13,996	9,958	-10,336	-6,298	その他	19,595	25,226	44,763	-5,631	-25,168
フグ類	3,424	2,247	4,790	1,177	-1,366	合計	228,776	371,779	256,758	-143,004	-27,983
スルメイカ	890	9,715	9,750	-8,825	-8,859	全漁法 (kg)					
アオリイカ	1,077	2,782	1,065	-1,705	12	魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差
ケンサキイカ	13,388	43,318	18,517	-29,930	-5,128	合計	1,162,567	1,308,540	1,226,070	-145,973	-63,503
その他	19,694	24,784	29,236	-5,090	-9,542						
合計	897,415	896,610	915,713	805	-18,298						

※1 平年の値は2012-2021年の10年平均です。 ※2 ( )は銘柄、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。

※3 サザエ、アワビの平年値は2014-2021年の8年平均です ※4 数値は小数点以下を四捨五入しています。

### 〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：6月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：6月にJF 京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：6月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：6月中旬～7月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…サバ17.6 t、マアジ7.3 t、フクラギ・コブクラ4.2 t、ガンド2.4 t、ブリ2.4 t

京都府…定置網…サバ類7.5 t、マアジ6.7 t、カタクチイワシ5.9 t、サワラ類5.4 t、ブリ類3.3 t

兵庫県…定置網…アジ152 kg、シロイカ48 kg、トビウオ37 kg、ツバス12 kg、スルメイカ7 kg、スズキ6 kg

鳥取県…まき網…マイワシ19.8 t、ウルメイワシ15.7 t、マサバ7.5 t、ブリ類1.8 t、マアジ0.9 t

(漁場環境グループ 梶原 大郁)

## 2022年スルメイカ長期漁況予報

**福井県スルメイカの漁模様** 今年の6月のイカ釣り漁法による漁獲量は159 tと前年(282 t, 対前年比56%)および平年(2010-2020年の10年平均)(136 t, 対平年比117%)と前年を下回り、平年並みでした。

**日本海スルメイカの今後の見通し** 西部日本海では、来遊量は前年を下回り、沖合からの南下群による好漁場は形成されにくいと予想されることから、前年を下回り平均並と予測されます。沖合域の来遊量は、前年および近年平均を下回ることが予測されます。北海道西部の分布量が前年並に少なく、大和堆周辺海域も前年のような高密度分布が見られなかったことから、沖合域は全域で漁場となりにくく、漁場形成は不安定であると予測されます。

### ○ 2022年度スルメイカ漁場一斉調査結果

日本海側の各試験研究機関によるスルメイカ漁場一斉調査が、6月下旬から7月上旬にかけて行われましたので、その結果についてお知らせします。

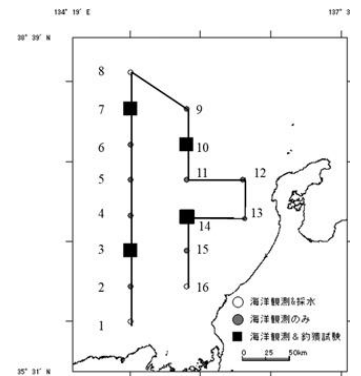
#### (1) 福井県の調査結果(表1)

福井県沖合の4定点(図1)において、釣機6台を用いて毎晩20時~4時の8時間釣獲試験を行いました。

- 釣獲結果…総釣獲尾数は、5尾(2021年:26尾)、CPUE(釣り機1台1時間あたりの釣獲尾数)は0~0.06尾、平均0.03尾でした。
- 体長組成…釣獲されたイカの外套背長(胴の長さ)は10~14cmでした。
- 漁場水温…釣獲海域の表面水温は20.6~24.8℃(2021年:21.5~23.9℃)、50m深水温は11.5~16.5℃(同:6.9~17.3℃)でした。

**表1 調査点およびスルメイカ釣獲調査結果**

月日	6月29日	6月30日	7月1日	7月2日
調査位置	N36° 40'	N37° 58'	N37° 35'	N36° 57'
	E135° 00'	E135° 04'	E135° 41'	E135° 39'
釣獲匹数	2	2	1	0
CPUE	0.04	0.06	0.02	0
平均外套背長(cm)	11	13	17	
表面水温(℃)	22.5	20.6	21.8	24.8
50m深水温(℃)	14.5	11.5	16.5	16.1
標識放流匹数(匹)	0	0	0	0



**図1 スルメイカ釣獲調査点**

#### (2) 日本海全体の状況(図2)

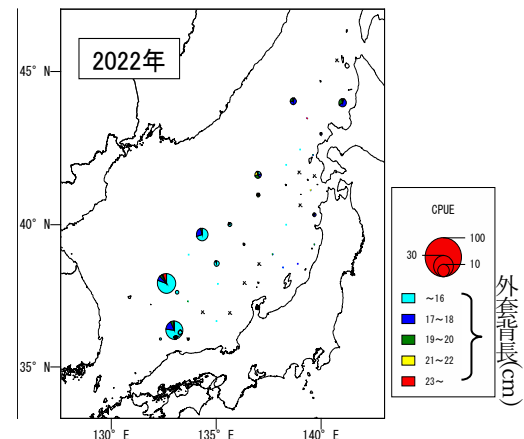
日本海区水産研究所の取りまとめによると、全調査定点におけるCPUEの平均は2.05尾で、前年(5.43尾)を下回り、近年平均(9.84尾)の約21%でした。

道北~道央海域では、外套背長17cm台~18cm台の個体を中心に採集され、CPUEは最大4.9尾で、漁獲のない点もありました。

本州北部日本海では、外套背長17cm台~18cm台の個体を中心に採集され、CPUEは最大1.1尾で、漁獲のない点もありました。

西部日本海では、外套背長15cm以下のサイズが主体でしたが、20cmを超える個体が漁獲された地点もありました。CPUEは隠岐西の24.9尾が最大であった他は1尾を下回り、漁獲のない点もありました。

沖合域では、外套背長14cm台~16cm台が主体で、CPUEは、北緯37度59分、東経134度20分(図2参照)の点で14.3尾が最大で、漁獲のない点もあった。今期の分布は前年と同じく、北海道西沖の分布が少なかった一方で、昨年CPUEの高かった大和堆から外れた海域においても特別高い点はありませんでした。



**図2 日本海におけるスルメイカ分布**

今回の調査では、各試験研究機関でスルメイカの標識放流を実施しています。標識の付いたスルメイカを再捕されましたら水産試験場までご連絡をお願いいたします。  
(漁場環境グループ 梶原 大郁)